

13. 「戦争と住宅—生活空間の探求(下)—」

(西山卯三著、勁草書房 1983. 7. 15 発行)

フェイスブック掲載日 2021/9/6

京都大学名誉教授の西山卯三博士の回想録であるこの書物には第18章「宇治火薬製造所」があります。1937(昭和12)年8月16日夜、宇治火薬製造所の大爆発事故のにぶい爆発音を北白川の下宿で聞いた西山氏は翌1938年、陸軍歩兵少尉として宇治火薬製造所に赴任することになりました。仕事は主に宇治火薬製造所の北側にある分工場で、工務掛の営造担当の責任者として火薬製造棟の新・増築や、修理、補修など建設関係全般を任されていました。ここで3年間、その任務に就いており、文中からは宇治火薬製造所及び分工場の経営から、非生産的で非人道的な戦争の姿が伝わってきます。

そして、「分工場の北側に…国鉄木幡駅から京阪電車をこえて鉄道引込線がひかれた。この仕事は私の応召中最後の仕事で、その完成を見ずに去ったが、…」との部分に釘付けになりました。この引込線こそ、私の子供の頃の遊び場であり、現在、我が家の北側に東西に走っている土堤なのです。これを西山氏が手がけていたとは、まったく知りませんでした。

この書物は「宇治と火薬」を調べる上で、非常に重要な情報を与えてくれる1冊です。ご関心のある方はぜひお読みください。



宇治火薬製造所の調査を通して、第1次資料に当たることの大切さを痛感しています。以前、「火薬製造所の大爆発」で、西山氏の回想を載せたのですが、それは「京都の赤レンガ」(京都新聞社発行)という本からの情報でした。原文である「戦争と住宅」を読んだのかとのご指摘や、第1次資料に当たれと教えて戴いたみなさんのアドバイスに感謝しています。大変重要な資料を得ることができました。

